

科目名	手技実技 1							年度	2026
英語科目名	Hand Therapy Practice 1							学期	前期
学科・学年	鍼灸科 1年次	必/選	必	時間数	30	単位数	1	種別※	実習
担当教員	宇野悦子	教員の実務経験		有	実務経験の職種		鍼灸師あん摩マッサージ指圧師		
<b>【科目の目的】</b> 手技技術の基本技術について実習する。日本の鍼灸施術は「触れる」ことから始まる。従って基礎技術として、触れる、押す、動かすなどの対人技術の習得が必要とされる。この課程では実際に手技を学ぶことによって人に触れること、身体を操作する技術を身につけ鍼灸施術の臨床に生かせることを目的とする。									
<b>【科目概要】</b> 手技技術の理解をし、マッサージを行う。滑剤としてタルクを使用し、マッサージの基本操作を習得する。続いて、オイルを使った基本操作を習得する。練習部位は上肢、下肢、体幹と進み、習得した技術を統合して一連の手技群として流れを構築し総合的な手技として完成させる。									
<b>【到達目標】</b> A: 人体の構造を理解して体感する。 B: 人に触れるための「手（身体）」を作る修練をする。 C: 手技としては皮膚への直接の接触を行うマッサージの基礎（基本手技）を学ぶ。 D: マッサージの手技を学んでいく上で、皮膚の状態、筋肉の状態、関節の状態、血液動態などを感じて種々の手技により身体に多くの影響を与えることが出来ることを理解して、それらを鍼灸に生かしていく。 E: 患者への接し方を考え実習を行う。									
<b>【授業の注意点】</b> 授業日数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することが出来ない。講義時間に無連絡で20分以上遅れた場合、受講は出来るが出席の扱いをしない。明確な理由がない早退は出席したとは認めない場合がある。課題は、本科の規則に従った形式で提出する。特定の指示がある場合を除いて、手書きでの作成を原則とする。									
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	解剖生理学を深く理解し、施術と関連づけられる	施術部位に関連した解剖生理学が分かり、どの様に触れるか考えられる	施術部位の解剖生理学が重要だと認識し、自主的に調べている	施術部位の解剖生理学がわかる	施術部位の解剖生理学が分からない				
到達目標 B	患者に対して考慮しながら触れ、身体構造的以外まで含めて区別できる	患者に触れた時の感覚の違いが身体構造的以外も含めて区別できる	患者に触れた時の感覚の違いが身体構造的に何かが分かる	患者に触れた時の感覚が表現できる	患者に触れた時の感覚が表現できない				
到達目標 C	基本手技を繋げて一連の流れでできる	手を作ることと連動して基本手技ができる	各基本手技が全て一通りできる	多様する基本手技ができる	基本手技ができない				
到達目標 D	手技を応用して鍼灸に繋がられる	基本手技を行いながら身体構造以外の鍼灸に必要な身体の状態も分かる	基本手技を行いながら身体構造が分かる	触れた部位の違いから身体構造が分かる	触れた部位の違いが分からない				
到達目標 E	臨床を想定して、治療院に入ってからの一連の対応ができる	施術中に患者へ配慮した対応ができる	患者に伝わるように配慮した会話ができる	患者に適した会話ができる	患者に適した会話ができない				
<b>【教科書】</b> プリント：各教科書より関連項目を抜粋（解剖生理学より筋肉、循環等）									
<b>【参考資料】</b> プリント									
<b>【成績の評価方法・評価基準】</b> 積極的な授業参加度、授業態度及び習熟度、授業で行った提出物、実技試験、臨床実習等で総合的に評価する									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		手技実技 1			年度	2026
英語表記		Hand Therapy Practice 1			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	ガイダンス、手技について	手技、マッサージに関する基本事項を理解する	1 手技について	手技について理解している	3	
			2 マッサージについて	マッサージについて理解している		
			3 鍼灸との関連について	手技として鍼灸に生かせることを理解している		
2	タルク前腕者への触れかたタルクの使い方	患タ前腕に触れた感覚を表現し、タルクの使い方を理解する	1 前回の復習	前回の理解した上に本日の内容を繋げることを理解する	3	
			2 前腕に触れる	前腕に触れ、感じたことを表現する。		
			3 タルクを使う	タルクの使い方を理解する。		
3	タルク前腕擦法の復習	軽前回タルクを使って軽擦法を行う	1 前回までの復習	前回までの内容に本日の内容を繋げることを理解する	3	
			2 前腕に触れる	手掌全体で皮膚に触れる		
			3 軽擦法	タルクを使って軽擦法ができる		
4	タルク前腕捏法までの復習	揉前回タルクを使って揉捏法を行う	1 前回までの復習	前回までの内容に本日の内容を繋げることを理解する	3	
			2 前腕に触れる	手掌全体で筋肉、骨に触れる		
			3 揉捏法	タルクを使って揉捏法ができる		
5	タルク前腕迫法 叩打法 前回までの復習	圧タルクを使って圧迫法、叩打法を行う	1 前回までの復習	前回までの内容に本日の内容を繋げることを理解する	3	
			2 前腕に触れる	手掌全体で触れる時に身体の位置取りができる		
			3 圧迫法、叩打法	タルクを使って圧迫法、叩打法ができる		
6	タルク前腕前回までの復習しつ全体練習 オイルの説明	前タルクを使って各手技を繋げて行い、オイルの使い方を理解する	1 前回までの復習	前回までの内容に本日の内容を繋げることを理解する	3	
			2 流れで行う	手技を一連の流れでできる		
			3 オイルを使う	オイルの使い方を理解する		
7	オイル下腿床実習に向けて(前半)	臨下腿を施術するため身体の位置取りを圧迫法で行う	1 前回までの復習	前回までの内容に本日の内容を繋げることを理解する	3	
			2 下腿に触れる	下腿に触れる時に身体の位置取りができる		
			3 圧迫法	手掌全体で圧迫法ができる		
8	オイル下腿床実習に向けて(後半)	臨オイルを使って軽擦法を行う	1 前回までの復習	前回までの内容に本日の内容を繋げることを理解する	3	
			2 下腿に触れる	手掌全体で皮膚に触れる		
			3 軽擦法	オイルを使って軽擦法ができる		
9	オイル下腿床実習に向けて(全体)	臨オイルを使って揉捏法を行う	1 前回までの復習	前回までの内容に本日の内容を繋げることを理解する	3	
			2 下腿に触れる	手掌全体で筋肉、骨に触れる		
			3 揉捏法	オイルを使って揉捏法ができる		
10	オイル下腿床実習に向けて(全体)	臨オイルを使って圧迫法、叩打法を行う	1 前回までの復習	前回までの内容に本日の内容を繋げることを理解する	3	
			2 下腿に触れる	下腿に触れ、感じたことを表現できる		
			3 圧迫法、叩打法	オイルを使って圧迫法、叩打法ができる		
11	オイル下腿床実習に向けての全体練習と説明	臨オイルを使って各手技を一連の流れで行う	1 前回までの復習	前回までの内容に本日の内容を繋げることを理解する	3	
			2 流れで行う	各手技を一連の流れでできる		
			3 臨床実習	臨床実習で行う内容を理解する		
12	オイル下腿臨床実習1回行ってから全体練習と説明(手技以外も含)	臨オイルを使って手技を繋げて総合的に行う	1 前回までの復習	前回までの内容に本日の内容を繋げることを理解する	3	
			2 流れで行う	施術として総合的な流れでできる		
			3 臨床実習	臨床実習一回行って得たことを二回目に生かす		
13	オイル下肢せん法 強擦法	振下腿の応用で下肢に行ない、加えて振せん法、強擦法を行う	1 前回までの復習	前回までの内容に本日の内容を繋げることを理解する	3	
			2 下肢に触れる	下腿の応用で触れる		
			3 振せん法 強擦法	振せん法 強擦法ができる		
14	オイル下肢技試験	実下肢への応用を総合的に行う、その間に指導教員に対し下腿の手技を行う	1 前回までの復習	前回までの内容に本日の内容を繋げることを理解する	3	
			2 下肢に触れる	下腿で行った応用で一連手技が流れでできる		
			3 実技試験	下腿に一連の流れで施術ができる		
15	オイル背部	オイルを使って各手技を一連の流れで行う	1 前回までの復習	前回までの内容に本日の内容を繋げることを理解する	3	
			2 背部に触れる	背部に触れて感じた感覚を表現できる		
			3 流れで行う	手技を一連の流れでできる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等